

くすりと健康のはなし

薬包紙

第77回

一般社団法人岐阜県薬剤師会
きふ薬事情報センター委員
甲田 明英

10月のイベントとしてすぐには、もともと古代ケルト人が行っていた秋の収穫祭や悪魔祓いなどの宗教的な意味合いのある行事で、アイスランドやスコットランドから始まったとされています。現在では、アメリカなどで始まった宗教的要素のない民間行事が日本にも広まり、クリスマスと肩を並べるほどの一大イベントとなっています。

あまり知られてはいませんが、薬の世界にも10月には「薬祖神祭」というお祭りがあります。これは、医薬の祖神とされている大己貴命（おこなむじのみこと）と少彦名命（すくなひこなのみこと）の二神を祭ったものです。共に国土経営に尽力し、薬の術や医道、酒造諸々を教えた「古事記」や「日本書紀」「風土記」等に述べられています。大己貴命は須佐之男神（すさのおのみこと）の子孫で、大国主命（おおくにぬしのみこと）と同じ神様です。神話や童

10月のイベント「薬と健康の週間」について

謡でも親しまれ、特に「因幡の白兔」の神話は有名です。少彦名命は神産巢日神（かみむすびのみみ）の御子で蛾（が）の皮の着物に豆の実のさやの舟に乗っていたという大変小さな神であったようです。

さて昭和53年度からは、この「薬祖神祭」の行われる10月17日を初日として、「薬と健康の週間」が実施されているのをご存知でしょうか？「薬と健康の週間」は、医薬品を正しく使用することの大切さ、そのために薬剤師が果たす役割の大切さを一人でも多くの方に知ってもらために、ポスターなどを用いて積極的な啓発活動を行う週間です。

みなさんも、この「薬と健康の週間」にはもう一度ご自身の健康について確認して頂くと同時に、休日・夜間を含めた時間外でも、薬の副作用や飲み間違えなど、いざというとき、困ったときに、電話等による相談ができる地元のかかりつけ薬局、かかりつけ薬剤師をみつけましょう。